



☆ 講演会 ☆

「税務署ここだけ話」

講師：中野税務署長 小田満明 様



講師の小田署長

平成31年1月10日、中野サンプラザにおいて「講演会」が行われました。

講師に、中野税務署長 小田満明様を招聘して「税務署ここだけ話し」と題して講演していただきました。

【経歴】

まず始めに、私の今までの経験を述べさせていただき、その経験を基に今考えていること等をご披露できればと思っております。

私は、38年ほど国税の職場におりますが、課税に関する経験は非常に少なく、最も長いものはコンピューターシステムに関する仕事です。国税庁で16年ほど従事しておりました。その次には、国税局で滞納処分に関する仕事に従事しており、高額・悪質な滞納者のところに赴き、財産を確認して差押をするということをやっておりました。(～略～)

【システムとの出会い】

さて、システムに関する仕事が1番長いとお話いたしました。大学卒業後、国税の職場に入った当初はパソコンすらない時代であり、辛うじて電卓が登場しているころでした。暫くすると、国税の職場にもワープロが普及し、その後、パソコンの登場となりました。

当時の国税関係の申告書等の入力は、必要な情報を入力表に転記して、1週間に1度トラックで計算センターに搬送して入力してもらうというバッチシステムを採用しておりました。

私が32歳の時の人事異動によって、KSKシステムの開発に携わるようになり、ここで初めてシステムに本格的に触れ、今までのバッチシステムではなくオンラインシステムの仕事に従事しました。システム開発にあたり、打合せを行うのですが、相手はシステム会社であるため、当然聞いたことのない単語しか出てこず、非常に面食らいました。

しかし、メーカーにひとつひとつ教えてもらいながらやっておりました。また、システム開発に従事していた時期というのは、毎年技術が変わるもので、走りながらも時代は変わっていくのを実感しました。

【国税への影響】

その後、システム関係の仕事は離れましたが、今も技術の進歩は止まらず、最近ではスマートフォンがあれば何もいらぬような時代になり、人の行動や仕事の仕方に大きな影響を与えるようになりました。

各人の必要な情報はほとんどがスマートフォンで確認できるようになり、他人との連絡手段も非常に豊富になりました。仕事の仕方においては、手元のパソコンで海外取引から代金決済までを行うことができるようになり、会社の在り方も社内に自分の机がない会社や事務所すら持たない会社が増えてきております。

税務署としては、どこかに事務所があって書類が並んでおり、必ず経理担当者がいて、そこで税務調査ができるものだと思って仕事をしてきました。しかし、技術の進歩は目まぐるしいため、我々も新しい技術に対応していかなければならず、何をどのように確認すれば実態把握ができるのか知恵を絞って考えていくことが必要となっております。

【今後の行政のあり方】

これからも、人間の価値観や行動様式は大きく変わっていくと思います。その変化に対応できるように、税務署だけではなく行政全体としてシステムを有効活用して利便性の向上を目指していかなければなりません。日本にもマイナンバーカードが導入されたため、利用できる行政サービスの範囲を徐々に広げることにより、行政側も組織を絞っていくことができると思います。そのためにはどうしても国民の皆様の理解が必要となりますので、どうぞご協力をお願いします。